

令和4年2月1日
追記 令和5年5月9日

動物受入に関わる皆様

筑波大学トランスボーダー医学研究センター センター長 川口 敦史
生命科学動物資源センター 施設管理者 水野 聖哉

Pasteurella pneumotropica 陽性報告に伴う実態把握調査の結果について

皆様には日頃より大変お世話になっております。

さて、生命科学動物資源センター発生工学棟（A棟）マウス飼育エリアE（遺伝子改変マウス受託事業が実施されている区域）のE4室にて飼育されていた仮親マウス7匹を、令和4年1月4日にICLASモニタリングセンターに送り、微生物検査を依頼したところ、同月7日、1匹において*Pasteurella pneumotropica*（以下肺パスツレラ）が検出されたとの報告を受けました。肺パスツレラは日和見病原体に位置付けられている細菌であります。

その検査結果を受け、大規模な感染実態調査を実施し、その結果がICLASモニタリングセンターより寄せられました。

検査対象はエリアEにおいてマウスが飼育されている全ての部屋となります。検体は各ラックから無作為に3匹を抽出し、ICLASモニタリングセンターで検査されました。以下がその結果となります。

飼育室	E1	E2	E3	E4	E5	E6	合計
飼養ラック数	8	8	6	6	2	1	31 ラック
検査匹数	24	25	18	19*	6	3	95 匹**
陽性数	0	0	0	0	0	0	0 匹

* 陽性と判定された個体と同居していた個体についても陰性と判明

** 90 匹は生体で検査送付、5 匹は気管・結膜スワブ塗布血液寒天培地を検査送付

サンプリング：令和4年1月13日～1月24日

判定（ICLASモニタリングセンター）：令和4年1月25日～2月1日

結果、検査に出した検体は全て陰性であることが確認されました。

ホームページでも記載の通り、微生物感染について最大限の注意を払っておりますが、供給するマウス自体の納入時の微生物学的状況を保証することは困難であります。導入にあたり、必要に応じて、一定期間の隔離・検疫等の対応をお勧めします。

本センターからの動物受入に関わる皆様には、たいへんご心配をおかけし申し訳ありませんでした。

（追記）E4室の清浄化について

令和5年4月にE4室の清浄化作業を終了いたしました。

3か月おきに実施している定期微生物モニタリング自家検査においても、現在までに本エリアにおける肺パスツレラは検出されておられません。